

私たちは、ボランティアを「したい人」と「受けない人」をつなぐコーディネーター

ボランティアの育成に力を入れていますね——

社会福祉協議会の主な業務は地域福祉と介護保険業務に分かれますが、地域福祉がこれにあたります。

近年ボランティアの需要が増える一方で、ボランティアをしたいという意識も高まっています。また、「やりたいけれど何をやらしたらよいかわからない」という人も増えているように思います。こうした人たちに

対して、対話を通して、その人に何ができるかをいっしょに考え、アドバイスなどを行っています。

ボランティア連絡協議会も設立されましたね——

平成20年7月21日に、ボランティア相互の交流や協力を進めるため設立されました。

現在11の団体と、5の個人が加入しています。加入いただければ、社会福祉協議会としても、お手伝いがしやすくなりますし、何よりお互いが協力しあうことで、より大きな力を生むのではないかと考えています。

そしてこれは、まだ登録をしていない団体の皆さんに対してもいえることだと思っています。ぜひ、未加入の皆さんにも加入していただいて、ボランティアの輪を広げてほしいと思います。

これからどのような活動を予定していますか——

地域には、さまざまな「やってほしい」というニーズと「やりたい」というニーズがあります。私たちは、その両者を引き合わせる「コーディネーター」であると考えています。

今後は、「何をやるか」ではなく、「何が必要か」という視点で、皆さんの要望に耳を傾け、事業を行っていきたいと考えています。

これからもよろしく願います。



いろいろな活動をされていますが、大変ではありませんか——

大変というより、楽しさの方が大きいですね。力を合わせて作り上げる喜び、誰かの役に立つ実感は、かえ難いものがあります。

私自身も車いすを使っていますので、周囲の人にずいぶんお世話になっています。感謝の気持ちでいっぱいです。

ボランティアへの熱意の源はなんでしょうか——

私自身、足に障害があるので、南島原市をもっと障害者にやさしいまちにしたい、という気持ちです。ボランティア精神は、何かを「見過ごせない」「なんとかしたい」という気持ちから始まるのだとか。その気持ちをみんなと共有できれば、自然とボランティア活動へとつながっていくのではないのでしょうか。

南島原市が掲げる協働に近いですね——

市民のボランティア活動は、目的も方法もさまざまですし、何より短期的です。ですが、障害者の環境改善を例にとると、何十年という単位の展望が



音訳ボランティア「うぐいすの会」、点字サークル「むつらぼし」などで活動。自らも足に障害があり、サークル「わがどんでしてみゆー会」に参加。「障害があってもなくても、みんなが誰かのサポーター」を合言葉に、月に1回活動しています。



特集 笑顔のピース かけら piece of a smile

今回の特集では、市民の笑顔の陰で支える「ボランティア」を特集します。「ピースIllobo」とは、ジグソーパズルなどの「かけら」、「小片」、のこと。市民の「笑顔」に、絶対に欠かせない、大事な「ピース」。それがボランティア。ボランティアの皆さんの「声」という「ピース」を集めたとき、どんな絵が広がるのでしょうか。

環境大臣表彰の受賞おめでとうございます。きっかけは——

平成3年の普賢岳噴火災害をきっかけに民間の自分たちにも何か活動ができないかと、試行錯誤で始めたのがきっかけです。

広告代理店を経営していたころから環境問題に関心があり、いろいろな活動に参加してきました。ところが、そもそも広告の仕事は、大量消費、大量生産を促すことから言行一致しないジレンマもあって、広告の会社をリサイクルショップに業種変更しました。

長続きのコツは何でしょうか——

今回の受賞は仲間を代表していただいたにすぎませんし、こうした活動は、



島原市でリサイクルショップ「地球村」経営の傍ら、さまざまなボランティア活動が続けています。

インタビュー **旭 芳郎さん**（南有馬町） 大事なことは一人の100歩よりも100人の一歩！

みんなと一緒にやらなければ意味がありません。一人の「100歩」よりも100人が「1歩」を踏み出す方が大きな意味があります。それにみんなでやる方が、うんと楽しいですね。

理論よりも実践を重んじているようですが——

私たちの話を聞いて「わかってるよ」という人もいます。でも、実践しなければ、本当にわかったとは言えないと考えています。「わかる」とは、「知らなかった自分と袂を分かつ」という意味だそうです。マイ箸、節電、節水、マイバッグなど、何でも構いません。行動してこそ、初めて「わかった」ということなのだと思います。

森づくりも、温暖化防止活動も、水を守ることも、人間が生きていくための「大切に当たり前」のことです。未来に対する私たちの責任として、今できることを少しずつやっているにすぎません。地域に生きる住人の一人として、皆さんと一緒に今後もやり続けます。

旭 芳郎さん「環境大臣表彰」を受賞

長年の環境に対する功績が認められ、旭芳郎さん（南有馬町）が「平成21年度循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰」を受賞しました。これは、島原半島を中心に、県下一円でごみ減量化や温暖化防止などの講演を行ったり、植樹活動や農業を軸とした持続可能なライフスタイルを目指すなど、常に先駆的な姿勢、役割が評価されたものです。

